

(1) 学区の概況

- ・聚楽学区は、北は一条通、南は下長者町通、東は堀川通、西は松屋町通に囲まれ、上京区のほぼ中央に位置します。
- ・学区内には、豊臣秀吉の邸宅である「聚楽第」の歴史や史跡、京都基幹産業である西陣地域（中立売以北エリア）等の文化、両側町のコミュニティが今も残る住宅地域となっています。
- ・現在 25 カ町（公称町 30 カ町）が存在し、面積や人口ともに比較的小規模な学区となっています。

【聚楽学区の基本データ】

区域面積	16.9ha	道の総延長	4,977m
人 口 (H27)	2,877 人	路地の総延長	2,563m
人口密度	170.24 人/ha	空き家数	84 軒
世帯数	1,491 世帯	京町家数	316 軒
高齢化率	27.4%		

※人口、世帯数、高齢化率ともに平成 30 年 3 月時点

※空き家数：平成 26 年度調べ（京都市）

※京町家数：平成 28 年度調べ（京都市）

(2) 学区の歴史・成り立ち

【平安時代】

- ・聚楽学区は、平安京の大内裏北隅の一部にあり、平安京の条坊制による正方形の地割が形成されました。
- ・度々の災禍により大内裏一帯が荒廃し、大きな影響を受けましたが、工人たちが自ら座を結成し、西陣織業地が形成されていきました。

【安土桃山時代】

- ・豊臣秀吉が 1587 年に政庁兼邸宅として聚楽第を完成させ、京都を取り囲む 22.5km に及ぶ御土居を築き、聚楽第周辺には大名屋敷が設けられ、条坊制による正方形地割から短冊形地割へと変化しました。
- ・学区内には、聚楽第があった当時の武家屋敷があった場所や遺構に由来する町名が今も残されています。
- ・聚楽第は 8 年で荒廃しましたが、その後、急速に町家が建設され、堀川通以西、松屋町通以东は市街化し、町人町が形成されました。

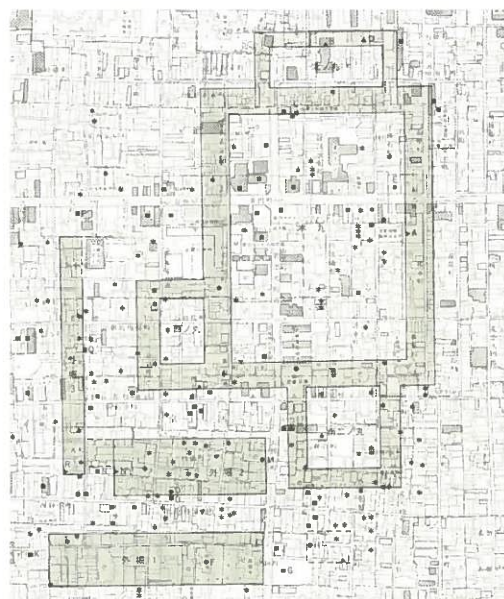


図 聚楽第と想定される位置

(出典：日本史研究会「豊臣秀吉と京都」)

【明治期～大正期】

- ・聚楽小学校は、明治2年に京都番組小学校の40番目、上京第十五番組小学校として開校され、明治5年の学制公布に伴い、上京第十六区小学校への改称を経て、明治8年に「上京区聚楽小学校」となりました。
- ・明治期の後半には、宅地が進んだこともあり、大宮通を一直線に北に延伸するために、民家を取り壊し、道路の拡幅整備が行われました。また、市電の延伸により鉄橋を掛け、西進させるため、中立売通の南側の民家を半分手り壊し、現在の道幅まで拡幅整備が行われるなど、大規模なまちの整備が行われました。
- ・聚楽学区一帯の地域は、良質な湧水が湧いたこともあり、井戸がいくつも掘られ、酒蔵が並んでいました。現在においても井戸が残され、災害時の防災資源の一つとなっています。

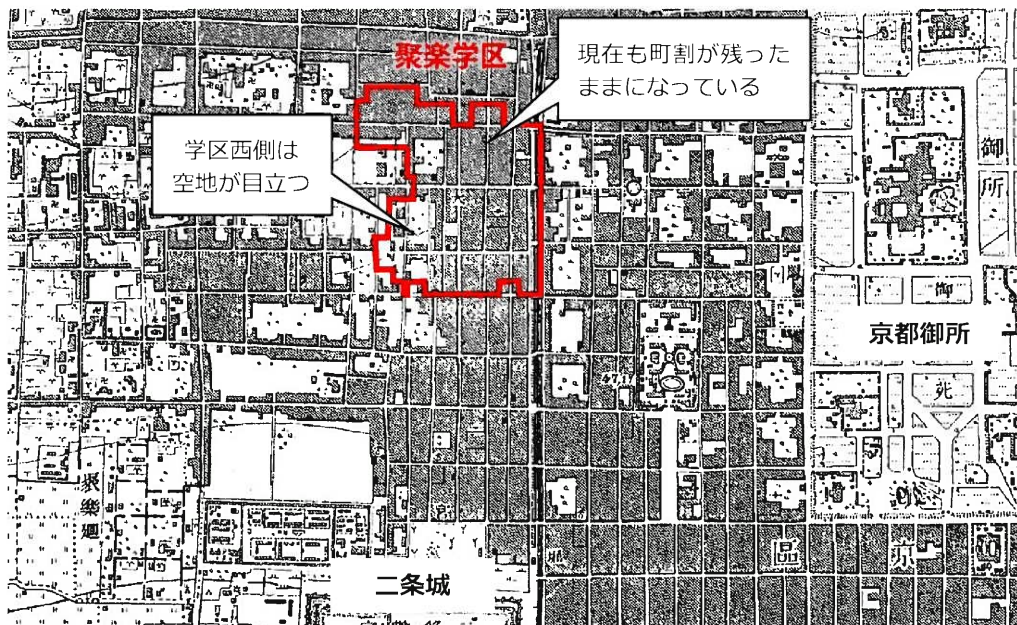


図 明治期の町並みの様子（出典：国土地理院「複製地形図」）

- ・大正期には、松屋町通以西の空地にも住宅が建設されるとともに、堀川通には有力な卸商や小売商が集まって軒を連ね、「堀川京極」と名付けられるほどの繁華街が形成されました。

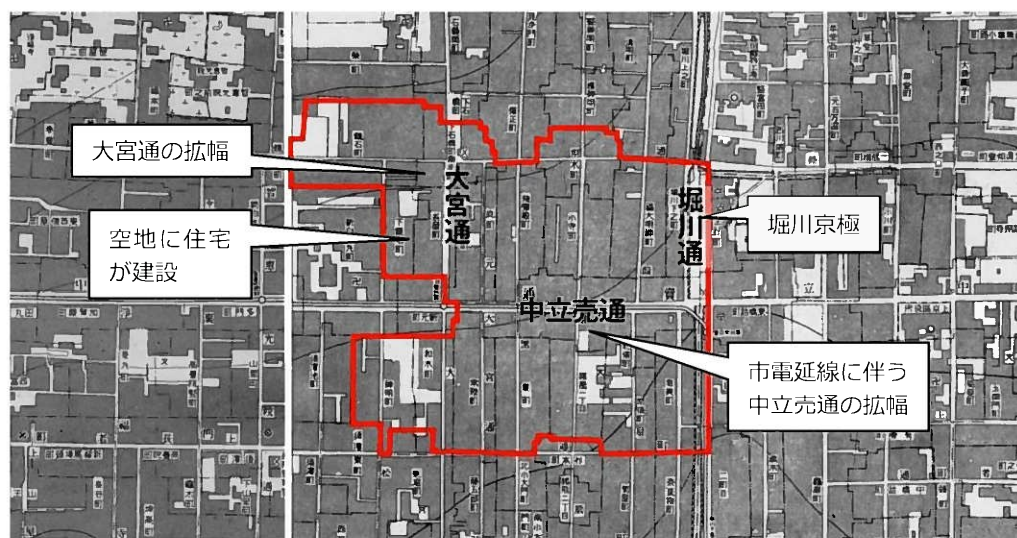


図 大正期の町並みの様子（出典：京都大学文学研究科所蔵「京都市都市計画基本図」）

【昭和期】

- ・昭和期には、堀川通は戦争の強制疎開により防火帯として、現在の幅員まで拡幅整備されました。それに伴い、堀川下之町が戦中の強制疎開により住民が立ち退きにあったため、町内がなくなった経過があります。
- ・通りの両側に敷き詰められるように、住宅が細分化され、現在の密集市街地が形成されたことが読み取れます。
- ・現在は空地となっていますが、梅雨の井があったとされる場所に、八雲神社があったことが読み取れます。

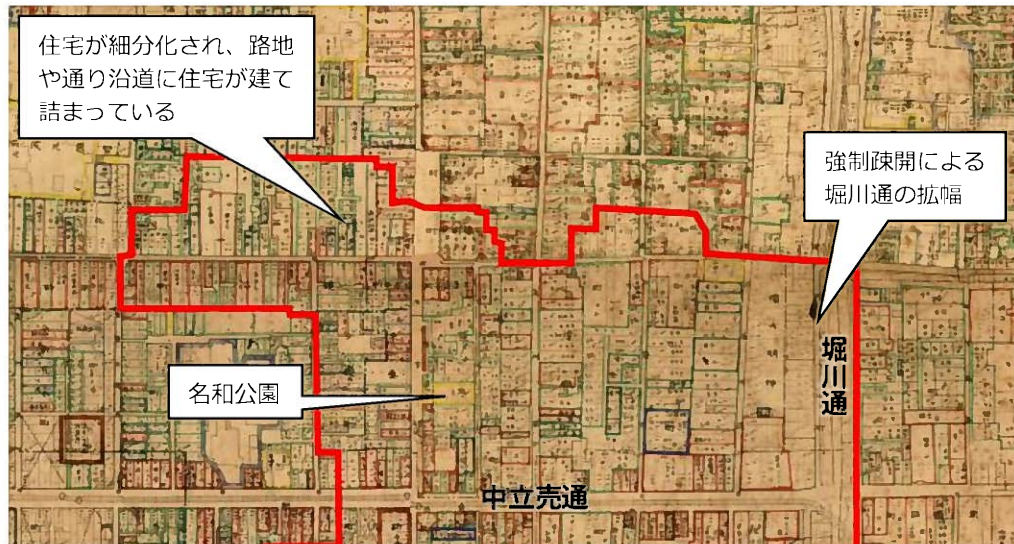


図 昭和 26 年頃の町並みの様子（中立売以北）
（出典：京都府立京都学・歴彩館「京都市明細図」）

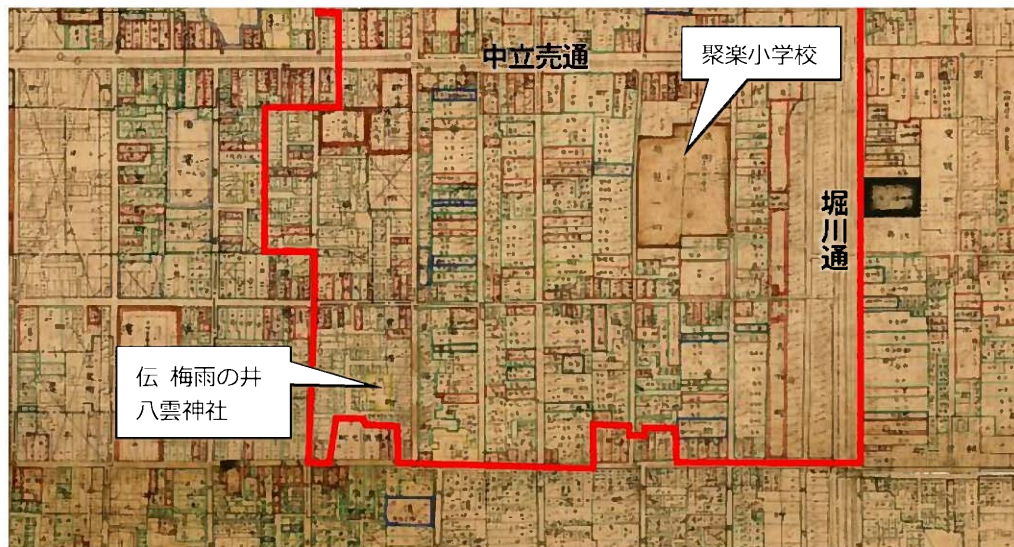
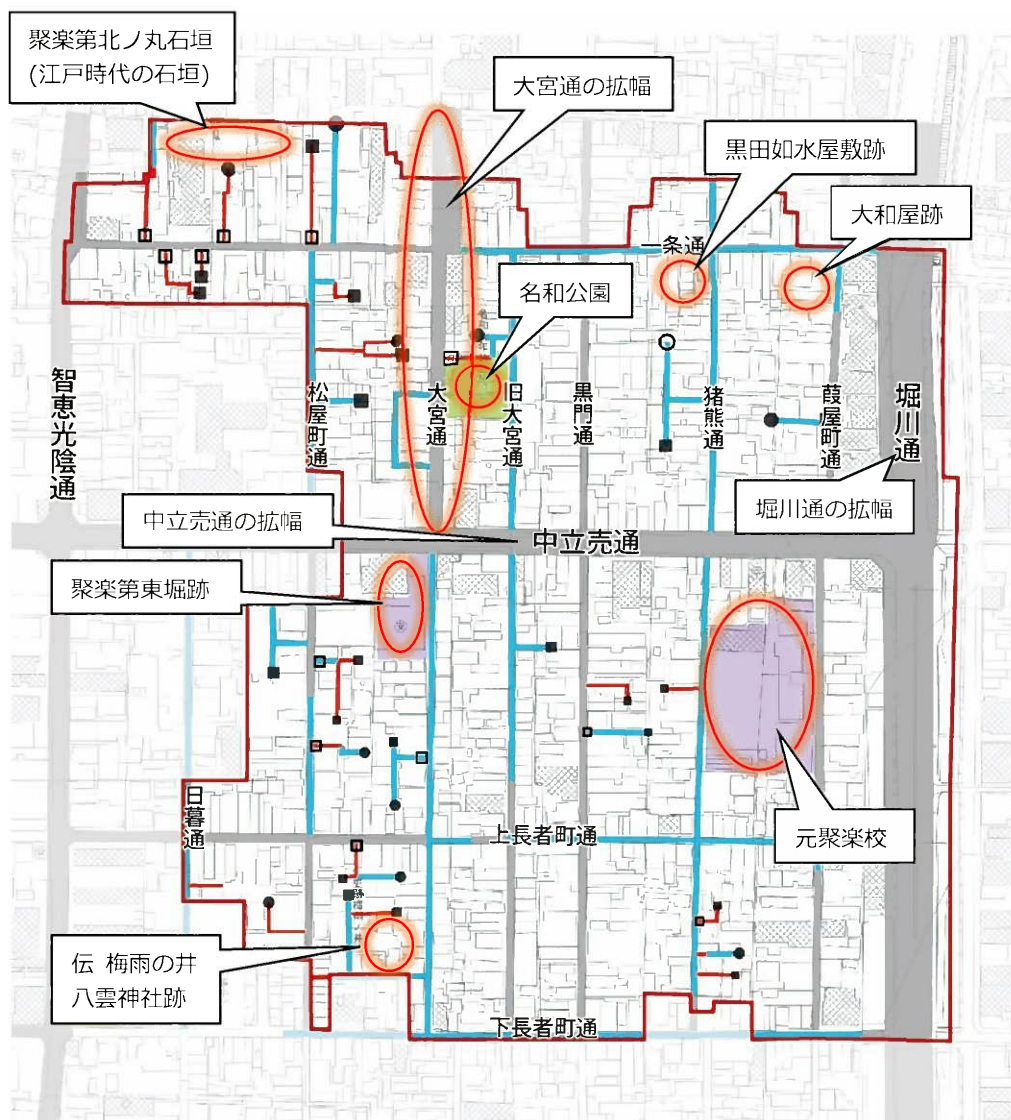


図 昭和 26 年頃の町並みの様子（中立売以南）
（出典：京都府立京都学・歴彩館「京都市明細図」）

【現在】

- ・明治期から昭和初期にかけて、市街化が更に進み、現在の聚楽学区のまちが形成されましたが、その後、産業の衰退や開発等により、まちは徐々に更新されたものの、まちの骨格は大きく変化することなく、現在に至ります。
- ・聚楽小学校は、平成９年には、児童数減少により西陣中央小学校への統合に伴い、廃校となりましたが、今日においても地域活動の拠点となっています。
- ・これまで積み重なったまちの歴史は、今も聚楽学区のまちの魅力として残されています。



現在の聚楽学区のまちの様子
(H30 まちの歴史セミナーで確認)

(3) 学区の現状と課題

み ち

- 学区内の通りは、東西と南北に碁盤の目状であり、日常生活の通過交通や災害時の避難経路となっているなど、地域の主要な道路となっています。
- 一方で、道幅が4 m未満の通りが多く、沿道には電柱や古い建物が多く立ち並んでおり、日常の通過交通量が多いため、危険性や不便性があります。
- 近年では、徐々に建物の更新が進んでいることもあり、後退箇所は見られますが、後退部分に物が置かれており、道路状況になっていないなど道路拡幅が十分に進んでいません。
- 交差点部分については、十分な隅切りがないため、緊急車両の円滑な通行の妨げになっています。



【課題①】 日常生活の通過交通や災害時の避難経路となる通りの道幅が狭く、建物の更新や開発による道路拡幅が進まないため、避難所までの避難や緊急車両の円滑な通行が困難であり、災害時の被害の拡大や避難・救助活動に不安があります。

- 学区内には、石畳の趣のある路地や連棟の京町家が立ち並ぶ路地が残っており、まちの魅力の一つとなっています。
- 一方で、幅の狭い路地や老朽化したトンネル路地、路地奥の老朽ブロック塀、行き止まり路地、路地入口部分に老朽化した建物があります。
- 路地内に物が置かれ、路面が舗装されていないなど、適正に維持・管理されていない路地も見られます。



【課題②】 災害時には、路地の入口部分の建物やトンネル部分、老朽ブロック塀等の倒壊により避難経路が塞がれ、避難に支障が出るおそれがあります。一方で、まちの魅力となっている路地については、聚楽らしい町並みを残しつつ、防災性を高める必要があります。

- 学区内は、市の広域的な幹線道路（堀川通）やそれを補完する補助幹線道路（中立売通・智恵光院通）に囲まれています。沿道に古い木造建物が立ち並んでいます。



【課題③】災害時の建物の倒壊等により、広域的な避難や救助活動に支障が出るおそれがあります。

【地域の皆さんからいただいた現状・課題に関するご意見】

- 災害時の避難経路の耐震化は重要。
- 4 m以上の道路幅の確保が必要。時間が掛かるため、できるところから取り組む。
- 道を広げると車の交通量が多くなるので、現在のままでちょうどよい。
- 道路幅は住民の意向が重要。住民の意向があれば狭いままでもよい。
- 交差点に電柱があり移設等の検討が必要。
- 電柱の移設や無電柱化は要望するだけでなく、地域としての問題意識や取組、活動等を発信する。
- 関係部局と連携（上京区役所、建設局）しながら取り組む。
- 奥行きのある袋路は避難経路を一体的に整備できるとよい。
- 元聚楽校の万代堀の対策の優先順位を上げて取り組む。
- 京都らしいまちの景観保全と防災の取組とのバランスや調整が必要。

い え

○各通りの沿道建物の更新が徐々に進んでいる一方で、古い木造建物（昭和 56 年以前建築）が多くあります。

【課題①】 災害時の建物の倒壊は、自身の命だけではなく、避難経路を塞ぎ、火災が燃え広がるおそれもあります。



○学区内の空き家は、比較的管理状態が良く、活用できる空き家が多く見られますが、近年では、民泊等に活用されているものも見られます。

○老朽化により屋根瓦や看板等の落下のおそれがあるなど、周囲へ影響を及ぼす管理状態の悪い空き家も見られます。



【課題②】 管理状態の悪い空き家は、災害時の倒壊により避難経路を塞いだり、火災の燃え広がるおそれもあります。

○管理状態の良い大型の京町家が比較的多く残っており、まちの魅力の一つとなっています。

【課題③】 京町家を適正に管理し、保全・継承していくことで、まちの防災性を高め、まちの魅力を残していく必要があります。



【地域の皆さんからいただいた現状・課題に関するご意見】

- 町内で空き家の情報管理・把握が必要。
- 空き家の周りにものを置かない。
- 放置空き家をなくす。
- 民泊の緊急連絡先の把握、町内会で民泊のルールづくりが必要。
- 町家の雰囲気は残してほしい。

ま ち

- 学区内には、災害時に一時避難や救助活動が可能なオープンスペース、火災延焼防止のための空間が少ない状況があります。
- 一方で、元聚楽校や名和公園は、日常における地域住民同士が交流でき、災害時にも活用できる地域の重要な拠点となっています。



【課題①】 オープンスペースが少ないため、火災延焼の拡大や救助活動、避難等に支障が出るおそれがあります。

- まちの防災性を高めるためには、まちの防災上の課題を把握し、「地域の集合場所」の安全性や災害時の資源等の定期的な確認・見直しが必要です。



【課題②】 防災上の課題の把握や「地域の集合場所」の安全性の確保が不十分であると、災害時の避難や安否確認等に支障が出るおそれがあります。

【地域の皆さんからいただいた現状・課題に関するご意見】

- 防災ウォーク（まちあるき）は多くの人に参加してもらい、継続していくことが大事。
- 駐車場や空地进行災害時に「地域の集合場所」として活用できるとよい。
- 名和公園は子どもの遊び場や地域住民同士のコミュニケーションの場になっている。

コミュニティ・歴史

- 両側町の文化や地蔵盆などの昔からある地域行事・風習が今も生活に息づいています。
- 近年では、子育て世帯等の若い世代が増え、新たなコミュニティが形成されている町内もあります。
- 一方で、町内の高齢化、世帯数の減少、生活様式や世代の違いによる地域活動への意識の格差などにより、住民同士の交流の機会が少なくなっている町内もあります。



【課題①】 日頃からの地域住民同士のコミュニケーションや情報共有が不十分であると、災害時の円滑な避難や安否確認、救助活動に支障が出るおそれがあります。

- 町内単位で消火訓練の実施や防災備品の管理など、主体的に防災に関する取り組みが見られる町内もある一方で、あまり取組が見られない町内もあるなど、町内ごとに防災に対する意識や取組に違いが見られます。

【課題②】 町内単位でのきめ細かな取組により、地域住民一人ひとりの防災意識を底上げし、地域防災力を高めていく必要があります。

- 聚楽第ゆかりのある史跡や石垣、通りの成り立ち、風情ある京町家の町並みなど、これまでの積み重なった歴史が感じられる資源が多く残っており、聚楽特有のまちの魅力となっています。



【課題③】 聚楽の良さや魅力を次の世代に残していくことで、さらなる地域コミュニティの向上やまちの防災性を高めていく必要があります。

【地域の皆さんからいただいた現状・課題に関するご意見】

- 町内会単位で話し合う機会が減っている。地域行事を情報共有や活動周知の機会にする。
- 近隣の町内同士や各町内単位などの小規模な単位での取組による地域力の底上げが大切。
- 若い人に広く参加してもらう。
- 町内の独り暮らしの高齢者の情報を把握する。
- 町内会のコミュニティを強くする。
- 新しく転入した住民の情報を町内会長にしっかりと伝える。
- 外国の方の災害時の対応の検討が必要。
- 町家の雰囲気や面影を残す。

(4) 学区内の通りの特性・課題

旧大宮通

- ・沿道には連棟の京町家が立ち並び、風情ある町並みが残っている。
- ・地域住民の交流やオープンスペースとなっている名和公園が接道している。
- ・一条通との交差点に十分な隅切りがないため、緊急車両の進入ができない。



大宮通

- ・平安京の東側に都大路として造られた通り。
- ・中立売以北は、広幅員のため災害時の重要な通り。明治30年代後半に宅地化を図るため、中立売通から北に延伸した際に、現在の幅員まで拡幅整備された。
- ・中立売以南は連棟の京町家が立ち並ぶ一方で、道幅が狭く、道がまっすぐになっていないため、円滑な通行ができない。



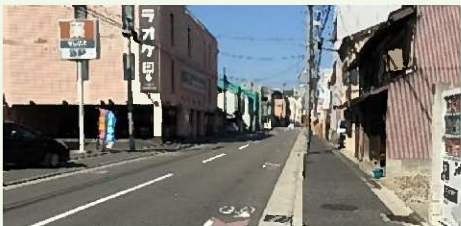
松屋町通

- ・地域の生活道路であり、車両の通行は比較的に少なく、危険性や不便性はあまりない。
- ・駐車場などの空地が点在している。



智恵光院通

- ・豊臣秀吉の京都改造後にできた通りであり、浄土宗智恵光院が通り名の由来。
- ・市の補助幹線道路であり、緊急車両の通行・救助活動、延焼遮断帯としての機能がある重要な通り。



黒門通

- ・豊臣秀吉の京都改造後に開かれた通り。今宮神社の神輿が通っている。京町家が点在。
- ・道幅が4m以上あり、学区内を南北に結び、避難所までの避難経路となる災害時の重要な通り。



猪熊通

- ・学区内で最も道幅が狭く、一部形状がへび玉状になっており、緊急車両の進入ができないため、災害時の避難や救助に支障が出る可能性がある。
- ・沿道には元聚楽校の古い万代堀や老朽空き家がある。



葎屋町通

- ・沿道東側は、マンション等のRC造建物に更新されているが、西側は木造建物が点在している。
- ・沿道に元聚楽校の古い万代堀がある。
- ・道幅はほぼ4mあるが、一条通や上長者町通との交差点部分が狭く、十分な隅切りがないため、円滑な通行に支障がある。



堀川通

- ・平安京造営計画に基づき、造られた南北に貫く通り。昭和期の強制疎開で現在の道幅まで拡幅整備された。
- ・市の広域的な幹線道路であり、緊急車両の通行・救助活動、延焼遮断帯としての機能がある重要な通り。



一条通

- ・平安京の北側を区切る大通りであり、山城盆地の北部を東西に抜ける街道であった。
- ・現在は道幅が狭く、堀川通から千本通への移動する抜け道として使われているため、通過交通が多く、危険性や不便性がある。
- ・葎屋町通、猪熊通、旧大宮通との交差点に十分な隅切りがないため、緊急車両の円滑な通行が困難。



中立売通

- ・豊臣秀吉の時代に呉服屋が絹布・巻物類を立売していたことが通り名の由来。
- ・市電延伸に合わせ、現在の幅員に拡幅整備された。
- ・市の補助幹線道路であり、緊急車両の通行・救助活動、延焼遮断帯としての機能がある重要な通り。



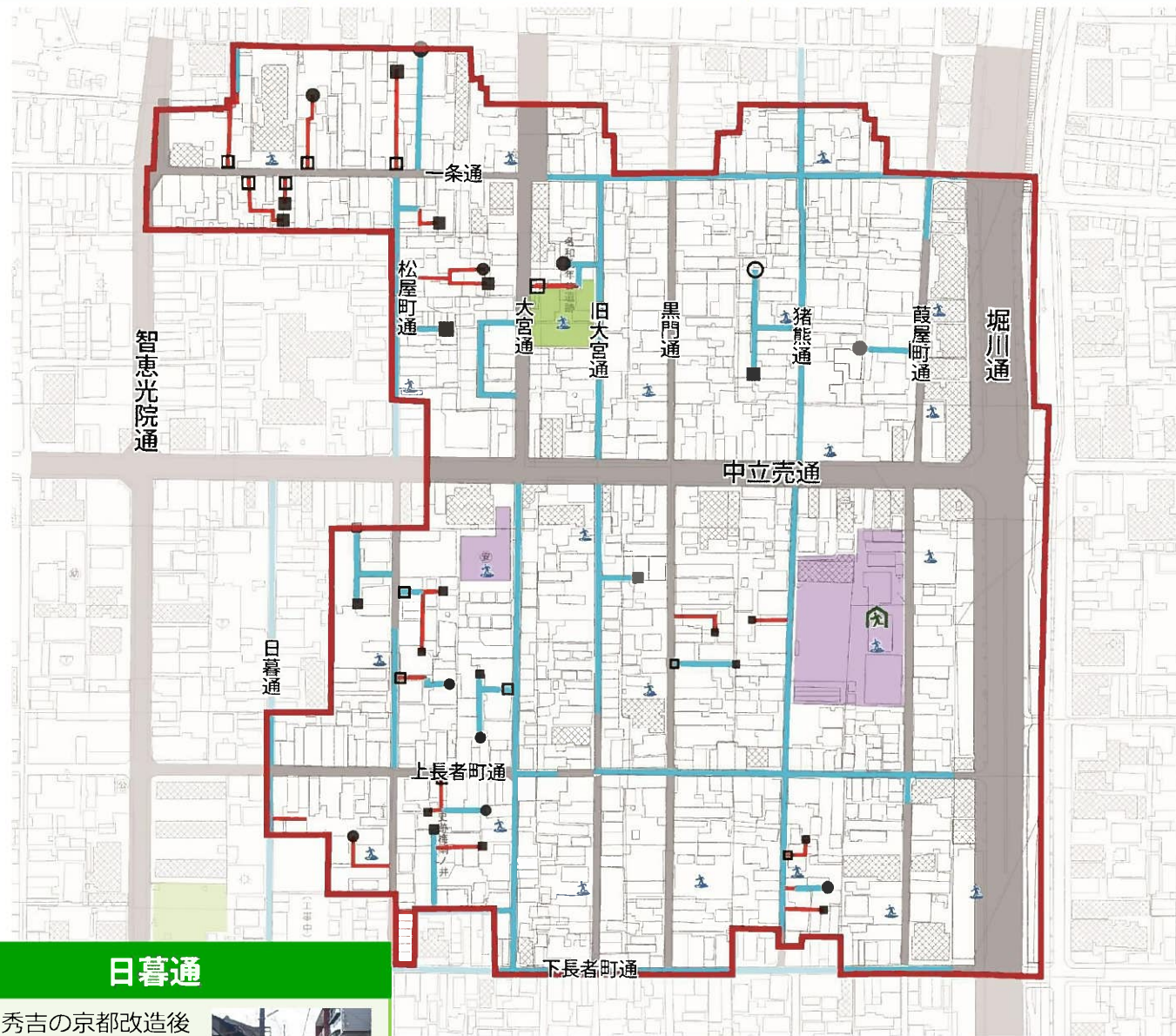
上長者町通

- ・学区の中立売以南エリアの町内の避難経路となる重要な通り。
- ・昔から沿道に商売をしている世帯が多く、日頃から通過交通が多い。
- ・沿道に老朽空き店舗があるため危険。
- ・葎屋町通、猪熊通、大宮通との交差点に十分な隅切りがないため、日常の通過交通や緊急車両が円滑に通行できない。



下長者町通

- ・建物の更新は見られるが、後退部分が道路状になっていない。
- ・T字路の箇所があり、交差点に十分な隅切りがないため、円滑な通行が困難。
- ・4m未満であり、沿道の両側に電柱があるため、日常の通行の危険性や不便性がある。



日暮通

- ・豊臣秀吉の京都改造後に開かれ、聚楽第の正門に位置したことから日暮門とも呼ばれていた。
- ・木造建物が点在している。



凡例		幅員 4.0m以上の道		袋路 (突き当りが扉)		公園・公共空間
		幅員 1.8m以上 4.0m未満の道		トンネル路地		公共施設
		幅員 1.8m未満の道		避難所		学区境界
		袋路 (突き当りが塀・柵等)		地域の集会所		